

課題解決型高度医療人材養成プログラム申請書
(看護師・薬剤師・その他メディカルスタッフ養成プログラム)

【様式C-1】

事業の構想等

申請担当大学名 (連携大学名)	鹿児島大学		
取組	2 - (1)	申請区分	単独事業
養成する医療人 (取組2 - (3)のみ)			
事業名 (全角20字以内)	地域での暮らしを最期まで支える人材養成 —離島・へき地をフィールドとした教育プログラム—		

1. 事業の構想 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

(1) 事業の全体構想

①事業の概要等

〈テーマに関する課題〉超高齢化社会を迎えている我が国では、地域の医療・ケアを担う人材の養成は急務であるが、**地域で働く看護師は不足している**。慣れ親しんだ地で最期までその人らしく生きることを支えるには、対象の多様な医療ニーズや健康ニーズに適切に対応できる能力と、対象を全人的に理解し包括的にケアを展開できる能力が求められる。そして、医療だけでなく保健・福祉など多岐にわたる能力が必要である。しかし、これらの修得は基礎教育だけでは難しく**卒後教育に負うところが大きい**。地域ケアを担う看護職をいかに効率的体系的に養成するかは課題である。

〈事業の概要〉(400字以内厳守) 本事業の特徴は、「**離島・へき地をフィールドとした教育**」により**地域ケアを担う人材を効率的体系的に養成するものである**。鹿児島県の離島・へき地は超高齢化、地域で支える人材や医療資源の不足など日本が直面する医療・介護問題を抱えている。一方、合計特殊出生率は高く、地域互助システムが機能している。また、地域住民は独自で多様な文化(価値観、生活様式等)を発展・保持している。つまり、**本県の離島・へき地は地域ケアに必要な能力育成に非常に適したフィールドであり**、生命の誕生から看取りまでを住み慣れた地域で支えることのできる人材育成を目指すことができる。

本事業には学部生を対象とし新卒3年までに、**地域ケアの基礎的能力の修得を目指した「卒前・卒後一貫教育コース」**と、臨床経験3年以上の看護師を対象とし、地域での看取りまで見据えた看護が提供でき、看護職者の**教育指導**ができる人材育成を目指した**「卒後アドバンスコース」**がある。

②大学・学部等の教育理念・使命(ミッション)・人材養成目的との関係

本学科のミッションは、「**離島・へき地を含めた地域医療の発展に寄与できる人材を育成すること**」「**島嶼看護についての教育研究や地域貢献を推進するとともに、超高齢社会を支える地域包括ケアシステムの構築、ケア提供者全体の質の向上への取組を進め、今後の社会的・地域的課題への対応に貢献すること**」である。本事業の目的は、**離島・へき地を含めた地域の人々の暮らしを最期まで支えることができる人材の養成であり、当に本学科が果たすべきミッションそのものである**。

③新規性・独創性

・鹿児島県の離島・へき地の特徴および本大学の離島・へき地での教育・研究実績を活かした実習・実務研修を学部教育および卒業研修に組み込むことにより、地域ケアを担う人材を効率的・体系的に育成しようとするプログラムである。すなわち、本事業は、地域ケアを担う人材育成の新たな教育モデルを提示するものである。

・本プログラムの「卒前・卒業一貫教育コース」と「卒業アドバンスコース」は、いずれも病院等医療施設に勤務しながら、地域ケアに必要な能力を修得できるプログラムである。

・本事業の両コースともに修了者に履修証明制度により、履修証明書を交付できる教育プログラムである。

・教育に、e-learningを導入しており、ほとんどの講義科目は自宅や職場などで都合の良い日時に受講生が自身で計画し、自己学習できる。

・教育に、e-ポートフォリオを導入しており、受講生の、学習履歴および学びや成長などが確認でき、指導・教育や教育効果の評価にも活用できる。

④達成目標・評価指標

「卒前・卒業一貫教育コース」では、学部学生のうち年間20名以上の育成を目標とする。この根拠としては、本学部から大学病院に就職する学生が25年度27名、26年度24名であること、本学部3年生に調査を行ったところ、本コースへの希望者が半数以上いたことなどが挙げられる。「卒業アドバンスコース」では、大学病院や県立病院、地域の医療施設などで働いている看護職のうち年間10名以上の修了者の輩出を目標とする。

⑤キャリア教育・キャリア形成支援(男女共同参画, 働きやすい職場環境, 勤務継続・復帰支援等も含む。)

※本事業において、新たな取組や計画がない場合は、記入不要です。

(2) 教育プログラム・コース → 【様式C-2】

2. 事業の実現可能性

(1) 事業の運営体制

①事業の実施体制

鹿児島大学医学部に、鹿児島大学島嶼・地域ナース育成センターを設立し、保健学科、大学病院、実習・研修先である地域（離島・へき地）の医療保健福祉施設、県（行政）などと連携し、教育プログラムの開発のための本事業の評価、受講生の離島・へき地での実習・実務研修の支援、講義・演習の実施、研修会などの計画・実施、受講生の達成度評価・単位認定などを行う。また、医学部長、保健学科長、看護学専攻教員、大学病院看護部、県（行政）、実習・研修する施設担当者による**運営委員会を組織**し、本事業について意見交換をする。また、本学大学院医歯学総合研究科にある離島へき地医療に貢献できる医療人の育成を目的とした「**離島へき地医療人育成センター**」とも**連携**し、本事業を行う計画である。

②事業の評価体制

本教育プログラムの妥当性について、下記のような、受講生による自己評価と外部の関係者による評価を行い、プログラムの見直しを行う。

- a. プロジェクトチーム内で評価委員会を設け、年1回本プログラムの進捗状況と受講生の学習を評価する。受講生の学習評価は、各実習（研修）終了時に実習（研修）目標の達成度に関する自己評価、実習（研修）レポート、課題レポート等により行う。また、本事業の評価に関する調査を各コース修了後に修了生に実施する。
- b. 外部評価委員として、離島・へき地の実習・研修施設の担当者、鹿児島県保健福祉部介護福祉課参事、鹿児島県三島村総務課課長、県看護協会長・専務理事、地域ケアに関わる看護師・研究教育者、教育学分野の研究者、本事業により受講生からケアを受けた地域住民などの協力を得て、本事業の効果について評価してもらう。

③事業の連携体制（連携大学、自治体、地域医療機関、民間企業等との役割分担や連携のメリット等）

- a. 平成14年度より、離島地域看護学実習を看護学専攻学生の必修科目とし、屋久島、奄美大島、加計呂麻島、喜界島、沖永良部島、甑島で実習を行ってきており、実習地との連携は確立されている。また、鹿児島大学の卒業生が、種子島、加計呂麻島等で活動している。
- b. 鹿児島大学医学部保健学科看護学専攻と鹿児島大学病院看護部はこれまでも人事交流してきた。また、鹿児島大学の教員が病院の現任教育へ携わっており、連携してきている。
- c. 鹿児島県、県看護協会、三島村から本事業へのアドバイスや外部評価への協力の同意を得ている。
- d. 三島村など離島やへき地にある医療機関、訪問看護ステーション等の実習への協力体制も整っている。

(2) 事業の継続・普及に関する構想等

①事業の継続に関する構想

本事業は助成終了後も継続する。継続するためには資金および人的資源が課題である。助成金によりe-learningなどの設備が整備されれば、設備備品等に要する経費は少なくなる。また、助成が終了したのちは、保健学科の専任教員および大学病院との人事交流による人材を活用することによって人的資源を確保し、人件費の縮小を図る。また、受講生からの受講料の徴収、県の事業への採用、外部資金の獲得等を目指す。また、本事業を、離島・へき地における特定行為を実施可能とする教育プログラムに発展させたいという構想をもっている。現在、大学病院には特定看護師（NP）が1名常勤している。

②事業の普及に関する計画

本教育プログラムの内容・進捗状況・成果をホームページ等で全国に情報発信する。また、ポスター、パンフレットを作成し、鹿児島県、県看護協会、県医師会等を通して、鹿児島県の医療保健福祉施設、訪問看護ステーション等へ広報する。さらに、本プログラムの受講生を全国から募集し、受け入れる。

(3) 事業実施計画

26年度	<p>① 8月 本事業の拠点となる島嶼・地域ナース育成センターの開設、運営委員会および各下部委員会（プログラム評価委員会、教育委員会など）を開催し、センターのスタッフ公募準備を行う。</p> <p>② 9月 ホームページ作成、パンフレット・ポスターの作成および関係施設への送付</p> <p>③ 10月 本養成プログラム・コースの説明会開催、受講生募集開始</p> <p>④ 10月 実習・実務研修先（離島・へき地）の視察・打ち合わせ</p> <p>⑤ 11月 本事業のニーズ把握のために、学部生および医療施設の看護師にアンケート調査</p> <p>⑥ 12月 教育・指導担当者のためのFD研修会開催</p> <p>⑦ 12月～3月 e-learning用講義DVD作成</p> <p>⑧ 3月 プロジェクトチーム内の評価委員による自己評価を行う（毎年1回）</p>
27年度	<p>① 4月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」1期生の本プログラム開始</p> <p>② 5月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」1期生「離島・へき地フィールドワーク」実施、研修成果報告会開催</p> <p>③ 7月「卒前・卒後一貫教育コース」1期生「離島・へき地での総合テーマ実習」実施、研修成果報告会開催</p> <p>④ 8月「卒後アドバンスコース」1期生「シャドウイング」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑤ 9月「卒前・卒後一貫教育コース」1期生「離島・へき地でのチーム医療実習」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑥ 10月「離島・へき地における地域ケアの現状」ワークショップ開催</p> <p>⑦ 11月 本養成プログラム・コースの説明会開催、次年度受講生募集開始</p> <p>⑧ 3月 プロジェクトチーム内の評価委員による自己評価を行う（毎年1回）</p>
28年度	<p>① 4月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」2期生の本プログラム開始</p> <p>② 5月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」2期生「離島・へき地フィールドワーク」実施、研修成果報告会開催</p> <p>③ 7月「卒前・卒後一貫教育コース」2期生「離島・へき地での総合テーマ実習」実施、研修成果報告会開催、「卒後アドバンスコース」1期生「実務研修ステップⅠ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>④ 8月「卒後アドバンスコース」2期生「シャドウイング」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑤ 9月「卒前・卒後一貫教育コース」2期生「離島・へき地でのチーム医療実習」、研修成果報告会開催</p> <p>⑥ 11月 本養成プログラム・コースの説明会開催、次年度受講生募集開始、「卒後アドバンスコース」1期生「実務研修ステップⅡ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑦ 3月 プロジェクトチーム内の評価委員による自己評価を行う（毎年1回）</p>
29年度	<p>① 4月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」3期生の本プログラム開始</p> <p>② 5月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」3期生「離島・へき地フィールドワーク」実施、研修成果報告会開催</p> <p>③ 7月「卒前・卒後一貫教育コース」3期生「離島・へき地での総合テーマ実習」実施、研修成果報告会開催</p> <p>④ 8月「卒前・卒後一貫教育コース」1期生「シャドウイング」実施、研修成果報告会開催 「卒後アドバンスコース」3期生「実務研修ステップⅢ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑤ 9月「卒前・卒後一貫教育コース」3期生「離島・へき地でのチーム医療実習」、研修成果報告会開催</p> <p>⑥ 11月 本養成プログラム・コースの説明会開催、次年度受講生募集開始、「卒前・卒後一貫教育コース」1期生「実務研修ステップⅠ」「卒後アドバンスコース」2期生「実務研修ステップⅡ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑦ 2月 本養成プログラム・コースの説明会開催、次年度受講生募集開始、「卒後アドバンスコース」1期生「実務研修ステップⅣ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑧ 3月 「卒後アドバンスコース」1期生修了、修了証明授与、修了報告会開催、プロジェクトチーム内の評価委員による自己評価を行う（毎年1回）</p>

30年度	<p>① 4月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」4期生の本プログラム開始、「卒後アドバンスコース」中間評価報告会開催</p> <p>② 5月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」4期生「離島・へき地フィールドワーク」実施、研修成果報告会開催</p> <p>③ 7月「卒前・卒後一貫教育コース」4期生「離島・へき地での総合テーマ実習」実施、研修成果報告会開催</p> <p>④ 8月「卒前・卒後一貫教育コース」2期生「シャドウイング」実施、研修成果報告会開催 「卒後アドバンスコース」4期生「実務研修ステップⅢ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑤ 9月「卒前・卒後一貫教育コース」4期生「離島・へき地でのチーム医療実習」、研修成果報告会開催</p> <p>⑥ 10月「卒前・卒後一貫教育コース」1期生「実務研修ステップⅡ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑦ 11月 本養成プログラム・コースの説明会開催、次年度受講生募集開始、「卒前・卒後一貫教育コース」2期生「実務研修ステップⅠ」、「卒後アドバンスコース」3期生「実務研修ステップⅡ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑧ 2月 本養成プログラム・コースの説明会開催、次年度受講生募集開始、「卒後アドバンスコース」2期生「実務研修ステップⅣ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑨ 3月 「卒後アドバンスコース」2期生「卒前・卒後一貫教育コース」1期生修了、修了証明授与、修了報告会開催、本養成プログラム最終評価・総括</p>
31年度 [財政支援 終了後]	<p>① 4月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」5期生の本プログラム開始、本プログラム最終評価報告会開催</p> <p>② 5月「卒後アドバンスコース」「卒前・卒後一貫教育コース」5期生「離島・へき地フィールドワーク」実施、研修成果報告会開催</p> <p>③ 7月「卒前・卒後一貫教育コース」5期生「離島・へき地での総合テーマ実習」実施、研修成果報告会開催</p> <p>④ 8月「卒前・卒後一貫教育コース」3期生「シャドウイング」実施、研修成果報告会開催 「卒後アドバンスコース」3期生「実務研修ステップⅢ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑤ 9月「卒前・卒後一貫教育コース」5期生「離島・へき地でのチーム医療実習」、研修成果報告会開催</p> <p>⑥ 10月「卒前・卒後一貫教育コース」2期生「実務研修ステップⅡ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑦ 11月 本養成プログラム・コースの説明会開催、次年度受講生募集開始、「卒前・卒後一貫教育コース」3期生「実務研修ステップⅠ」、「卒後アドバンスコース」4期生「実務研修ステップⅡ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑧ 2月 本養成プログラム・コースの説明会開催、次年度受講生募集開始、「卒後アドバンスコース」3期生「実務研修ステップⅣ」実施、研修成果報告会開催</p> <p>⑨ 3月 「卒後アドバンスコース」3期生「卒前・卒後一貫教育コース」2期生修了、修了証明授与、修了報告会開催、プロジェクトチーム内の評価委員による自己評価を行う（毎年1回）</p>

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学医学部保健学科
病院名・その他の連携先の名称等	鹿児島大学病院等
教育プログラム・コース名	地域での暮らしを最期まで支える人材養成－離島・へき地をフィールドとした教育プログラム－「卒前・卒後一貫教育コース」
教育プログラム・コースの目的	対象の暮らしぶりや価値観を理解するためには、まず自己の価値観を自覚することが重要であることから、看護基礎教育課程から養成していくことが望ましい。また、卒後、入職した医療施設において看護師としての臨床経験を積み重ねている時期に、地域ケアを実践的に体験することによる相乗的な教育効果をねらったプログラム・コースである。基礎教育と卒後教育を一貫した教育とすることにより、地域ケアを提供できる基礎的な力を体系的・効率的に修得させることを目指す。
養成すべき人材像	<p>地域の暮らしや看取りまで見据えた看護を提供できるという地域ケアを担い得る基礎的な力をもつ人材養成を目指す。例えば、医療施設においても、患者を「生活者」として捉え個々のニーズに沿った地域・在宅への移行（退院）を自律的に支援・調整できる看護師の養成を目指す。その下位項目は下記のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者を含めた看護の対象すべてに対して「その人らしさを支援することの重要性」を認識できる。 2. 専門的な知識・技術を持ち、対象の医療ニーズや健康・生活ニーズに適切に対応できる。 3. 対象を「生活者」として全人的・包括的に捉え、対象個々の状況に応じた支援を実践できる。 4. 必要な医療・ケアが円滑に提供されるように、医療保健福祉関係者、地域等と連携・協働することができる。 5. 自分の看護職としての今後の目標・将来像を描くことができる。
教育プログラム・コースに関連する今までの実績	平成14年度より、屋久島、奄美大島、加計呂麻島、喜界島、沖永良部島、甌島で実習を行ってきている。大学はすでに島嶼看護学の教育・研究、無医島に駐在する看護師の看護継続教育支援システムの開発、公開講座等を行ってきている。
教育プログラム・コースの内容・実施方法・実施体制	<p>「離島・地域ナース育成センター」を本学科に設置し本教育の拠点とする。</p> <p>修了要件：学部4年次の「チーム医療実習」「総合テーマ実習」は離島・へき地での実習を履修すること。また、離島地域看護学実習も履修すること。卒後は3年間で必修科目を履修し、各科目の試験および最終試験に合格すること。本コース修了時には、履修証明制度により修了証明書を授与する。</p> <p>履修方法：卒後に受講する講義（必修）は自分で履修計画を立て履修する。開講日時が指定してある科目もある。講義はe-learning、対面授業がある。履修認定は試験またはレポート等の評価による。</p> <p>履修科目：【専門支持科目】フィジカルアセスメントⅠ～Ⅵ（消化器系、循環器系、脳神経系、呼吸器系、小児、演習）、臨床薬理学、チームとケアマネジメント、島嶼学【専門教育科目】地域包括システム論、<u>地域看護学概論</u>、<u>家族看護論</u>、<u>地域看護技術論</u>、<u>健康教育論</u>、<u>疫学</u>、<u>離島看護活動論</u>、<u>認知症ケア</u>、<u>精神障がい者を支える地域ケア</u>、<u>小児の在宅療養</u>、<u>高齢者の地域ケア</u>、<u>災害看護学</u>、<u>文化看護学</u>、<u>地域ケアを支える医療保健福祉制度</u>、<u>リハビリを要する人のケア</u>（講義・演習）、<u>難病患者の在宅療養・ケア</u>（講義・演習）、<u>地域での看取り</u>（講義・演習）【実習（実務研修）】<u>「離島地域看護学実習」</u>、「<u>離島・へき地でのチーム医療実習</u>」、「<u>離島・へき地での総合テーマ実習</u>」、「<u>離島・へき地の診療所・地域包括支援センター・訪問看護ステーション等でのシャドウイング</u>」、「<u>離島・へき地の診療所・地域包括支援センター・訪問看護ステーション等での実務研修ステップⅠ</u>」、「<u>離島・へき地の診療所・地域包括支援センター・訪問看護ステーション等での実務研修ステップⅡ</u>」（下線は学部で履修する科目・実習）</p> <p>募集方法：入学時に本コースの説明を行い、学部2年後期にコース生を募集する。</p>
受入開始時期	平成27年4月

受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	学部生		20	20	20	20	80
							0
							0
							0
	計	0	20	20	20	20	80

教育プログラム・コースの概要

大学名等	鹿児島大学医学部保健学科
病院名・その他の連携先の名称等	鹿児島大学病院等
教育プログラム・コース名	地域での暮らしを最期まで支える人材養成－離島・へき地をフィールドとした教育－・「卒後アドバンスコース」
教育プログラム・コースの目的	看護師としての3年以上の多様な臨床経験と離島・へき地での実務研修による相乗的な教育効果をねらったコースである。本プログラムにより地域の人々の看取りまで見据えた看護を展開する能力、さらに他の看護職者を教育指導できる能力を体系的・効率的に修得させることを目指す。
養成すべき人材像	<p>地域の人々が「住み慣れた場所で、最期までその人らしく生きる」ことを支援でき、他の看護職者や関係者を教育指導できる人材の養成を目指す。そのために下記の行動目標を自立して達成できることを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象個々の生活様式や考え方・価値観を理解し、その人の自己決定を尊重しながらQOL向上を目指したケアを展開できる。 2. 対象の医療ニーズ、健康・生活ノードを見出し、解決するための支援方法を考案でき、適切に対応できる。（健康教育・疾病予防、自立支援、生活援助、初期救急、慢性疾患の管理、リハビリテーション、終末期ケア・看取り） 3. 対象を「生活者」として全人的・包括的に捉え、必要な継続看護を実践できる（自立支援、生活援助、退院調整・退院支援、終末期ケアなど）。 4. 必要な医療・ケアが提供されるように、チームの一員として医療保健福祉関係者、地域等と連携・協働することができる。 5. 看護職者・関係者に対して教育的・指導的に関わることができる。 6. 自分の看護職としての目標をもち、継続的な学習を自律的に進めていくことができる。
教育プログラム・コースに関連する今までの実績	大学病院看護部では、平成21年度からキャリアパスに「地域看護コース」を設け、離島・僻地の看護職との人事交流を行っている。また、平成23年度からは新人看護師を対象に「3年間で鹿児島県の医療人（看護師）を育成する」ことを目標に、「鹿児島医療人育成プラン」にも取り組んでいる。平成25年度には入職3年目の看護師を対象に、病院でプライマリナースとして受け持ち退院支援に関わった患者のその後を追跡し離島を含む地域施設を訪問する研修を実施している。
教育プログラム・コースの内容・実施方法・実施体制	<p>「離島・地域ナース育成センター」を本学科に設置し本教育の拠点とする。</p> <p>修了要件：必修科目を履修し、各科目の試験および最終試験に合格すること。修了時には、履修証明制度により修了証明書を授与する。</p> <p>履修方法：3年間在籍し必要な単位を取得する（4年間の長期履修を認める）。講義は自分で履修計画を立て履修する。演習、実習は開講日時が指定してある。講義はe-learning、対面授業がある。履修認定は試験またはレポート等の評価による。</p> <p>履修科目：【教養科目】奄美の民族文化、鹿児島探訪、倫理学入門【専門支持科目】フィジカルアセスメントⅠ～Ⅵ（消化器系、循環器系、脳神経系、呼吸器系、小児、演習）、臨床薬理学、チームとケアマネジメント、島嶼学【専門教育科目】地域包括システム論、地域看護学概論、家族看護論、地域看護技術論、健康教育論、疫学、離島看護活動論、認知症ケア、精神障がい者の地域ケア、小児の在宅療養、高齢者の地域ケア、文化看護学、災害看護学、地域ケアを支える医療保健福祉制度、リハビリを要する人のケア（講義・演習）、難病患者の在宅療養・ケア（講義・演習）、地域での看取り（講義・演習）</p> <p>【実習（実務研修）】「離島・へき地フィールドワーク」、「離島・へき地の診療所・地域包括支援センター・訪問看護ステーション等でのシャドウイング」、「離島・へき地の診療所・地域包括支援センター・訪問看護ステーション等での実務研修ステップⅠ」、「離島・へき地の診療所・地域包括支援センター・訪問看護ステーション等での実務研修ステップⅡ」、「離島・へき地の診療所・地域包括支援センター・訪問看護ステーション等での実務研修ステップⅢ」、「離島・へき地の診療所・地域包括支援センター・訪問看護ステーション等での実務研修ステップⅣ」</p> <p>募集方法：ホームページ、ポスター、パンフレット、および大学病院等に出向き本事業の説明を行う。応募要件：看護師としての臨床経験3年以上とする。</p>

受入開始時期	平成27年4月						
受入目標人数	対象者	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	計
	看護師		10	10	10	10	40
							0
							0
							0
	計	0	10	10	10	10	40

地域での暮らしを最期まで支える人材養成—離島・へき地をフィールドとした教育プログラム—

卒後アドバンスコース: 地域での暮らしや看取りを支援でき、教育指導できる人材の育成
(3年間)

看護師としての臨床経験
幅広い臨床の知識・技術の向上
救急にも対応できる実践能力の向上
多様な事例のケア実践能力の獲得

離島・へき地での実務研修
フィールドワーク, シャドーイング, 実務研修ステップⅠ,
実務研修ステップⅡ, 実務研修ステップⅢ, 実務研修ステップⅣ

講義・演習 (e-learning, 対面)

履修証明書交付

人材の輩出

3年以上の臨床経験を
持つ看護師

卒前・卒後一貫教育コース: 地域ケアを担い得る基礎的能力の育成

看護基礎教育

専門支持教育科目

- ・社会と健康
- ・保健医療福祉行政論
- ・リハビリテーション概論
- ・チーム医療論

看護専門教育科目

- ・離島保健活動論
- ・離島看護学
- ・地域・在宅看護学
- ・公衆衛生看護概論
- ・ヘルスケアシステム論
- ・総合看護活動論
- ・緩和ケア
- ・災害看護学

離島・へき地での実習

離島看護学実習, チーム医療実習, 総合テーマ実習

卒後

1年目

2年目

3年目

看護師としての臨床経験

幅広い臨床の知識・技術の獲得
救急にも対応できる実践能力の獲得

離島・へき地での実務研修

シャドーイング, 実務研修ステップⅠ・Ⅱ

講義・演習

 (e-learning, 対面)

履修証明書交付

人材の輩出

へき地

地域医療施設

訪問看護ステーション

地域包括支援センター

介護・福祉施設

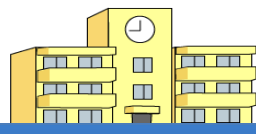
離島

鹿児島大学島嶼・地域ナース育成センター



鹿児島大学病院

人事交流
学生の教育
教育指導者の養成



鹿児島大学医学部保健学科

人事交流
学生の実習指導

県市町村

地域医療施設

訪問看護ステーション

地域包括支援センター